

<アジェンダ>

みなさん、想像してみてください。

何もない、砂漠にただ一人。

もう 10 日間も飲まず食わず。

突き刺さるような日差しがさらに辛い。

そこへ突然、目の前にキンキンに冷えたコーラが一本。

あなたはどんなことをしてもこのコーラを手に入れたと思うはずです。

しかし、コーラに向かって走り出そうとしたその瞬間、自分以外の大勢がコーラめがけて走っていることに気が付きます。

大人は殴り合い、子供は押しのけられるこの状況で、あなたは誰も傷つけず、コーラをとれる自信がありますか？

これは何もコーラに限ったことではありません。

命をつなぐための非常に限られた水や食料、自らとは異なる主義や思想を目の前にしたとき、人は時として暴力に頼らざるを得ないのです。

そこでの暴力は決して野蛮でも、異常でもありません。

<理念・問題意識>

このように、少ない資源を巡っての奪い合いは多くの国や地域で見られます。中でも、コンゴ民主共和国、シエラレオネ、エチオピアといった地域での紛争は桁違いの犠牲者を出しています。ダイヤモンドの利権争いにより内戦が長期化するシエラレオネ、戦術として集団強姦が平然と行われているコンゴ民主共和国。国境を巡る紛争の傷跡が今なお残るエチオピア・エリトリア。しかし、これらの国々は国際社会からの援助によって、少しずつ、それでも着実に、平和への一歩が踏み出せているのです。これらの国々をよそに、限られた食料や資源を巡る暴力が絶えること無く、その犠牲者に対する救いの手がほとんどないという絶望的な状況に置かれている国家があります。それが、東アフリカに位置する国、ソマリアです。本弁論の目的は、「ソマリアの人々の最低限の生活を守ること」にあります。

ソマリアの人々の生命は、まさに、今、この瞬間も危機に瀕しています。まだ生まれていない、未来の子供たちの命さえ危ぶまれているのです。こんな状況で人々は自らが望む生き方、考え方に基づいて行動することができませんでしょうか。それにも関わらず、統治できる政府はおろか、国際社会から彼らに差し伸べられる手はほとんどないのです。

<現状分析>

ソマリアは具体的にどんな状況にあるのでしょうか。ソマリアでは、暴力と飢餓によって多くの人々が命を落としています。

約 400 万人。ソマリアの人口の半分以上にもものぼる人々が飢饉に直面しています。飢饉。私たち日本人にとっては耳慣れない言葉です。おなかがすく、いえ、それどころではありません。飢えに飢え、目の色を変え、それでもなお生きようとする人々が最後に目を向けるもの、それは同胞です。想像を絶するような極限状態に陥ると、周りの人間はもはや人間ではなく、食料となってしまうのです。みなさんには、ここまで追いつめられた人々が想像できるでしょうか。しかし、ソマリアの悲惨さはこれだけでは終わりません。ソマリアで暴力によって死亡した人々は、この 20 年で 40 万人にも上ります。私たちの想像をはるかに越えるような、悲鳴に満ちた状況がソマリアの日常なのです。

<原因分析 1>

いったいなぜ、ソマリアはこれほどまでに悲惨な状況におかれているのでしょうか。まず、ソマリアに経済的に自立する術が無いことが挙げられます。テロ組織によって、100 基以上あった漁業基地が、全て破壊されました。ソマリアでは主要産業が壊され、人々が生計を立てる術がないのです。それなら外部が援助すればいいじゃないか。その通りです。共食いをするほどの極限状態にいる彼らは、国内が無政府状態である以上、外部からの援助をのどから手が出るほど待ち望んでいるはずですが。こんなにも切実な人々の願いに反して、最後の光である国際社会の援助も、テロ組織の妨害と略奪によって、実に無惨に、一瞬で消されているのです。

命の炎が消えかけている人々が、最後の力を振り絞って発する助けを求める声。しかし、これに答えるのは、沢山の食料でも、お金でもなく、止まない暴力だけなのです。テロ組織が支配するソマリアでは、爆破・銃撃、無差別虐殺が日常なのです。飢餓に暴力、ソマリアの人々がこれほどまでに絶望的な状況に陥っている全ての原因はテロ行為にあるのです。しかし、ここで私たちが注意しなくてはならないことが一つあります。それは、なにもテロそのものが悪ではないということです。問題なのは、テロリストたちのイスラム原理主義という思想ではありません。彼らの武力行為によって、そこに生命を脅かされる人々がいる、その事実こそが問題なのです。そしてそれこそが私たちは、決して見逃してはいけない事実です。

<原因分析 2>

テロ組織がここまでソマリアを掌握できている理由として、暴力をふるうことが最も合理的となってしまう構造があることです。ソマリア人々は生計を立てる術がなく、一日たったの 0.3 ドルで暮らしています。そこで若者は密猟や密輸によって強力な資金力を持っているテロ組織に加入するインセンティブを持ちます。ソマリアの有力テロ組織アルシャバーブは、1 人あたり月 300 ドルを、5000 人の戦闘員全員に支払っても、武器を購入できる資金力を持っています。この資金源を維持、さらにはより増大させるために、武器を用いて暴力行為

を行います。この結果もたらされている極悪な治安状況では国際社会が援助を行えず、既存の体制が温存されています。ソマリアでは 20 年以上に渡り、無政府状態が続いています。2012 年にできた政府は首都モガディシヨの半分しか統治出来ておらず、テロ組織から国民の最低限の生活を守る能力はありません。平和的な意思表示の機会是与えられず、自らの意志を恐怖によって表明しようとするテロ組織は、生命を脅かすほどの暴力を噴出します。

<政策>

では、この絶望から脱し、人々が生命の危機さらされることなく生活するためにはどうしたらよいのでしょうか。暴力に訴えてしまう構造そのものを変えることは非常に困難です。しかし、決して不可能ではありません。

私はこの構造を根本から解決する 3 つの段階的な政策を訴えます。一つ目に資源の密猟と密輸の取り締まり強化、二つ目に武器回収、三つ目に職業復帰を行います。

一つ目の政策は、テロ組織の資金源となっている象牙・砂糖・木炭、これら 3 つの密猟・密輸の取り締まり強化により、テロ行為の威力を弱めます。彼らは、これらの密輸によって外貨を獲得し、それを基に武器の購入を広く行っています。現状では、密猟が行われている現地ケニアで雇われたレンジャーが、密猟・密輸の取り締まりを行っており、監視の目が行き届いていません。そこで、取り締まりを、ソマリアの近隣諸国から構成される組織である AMISOM によって行います。象牙、砂糖、木炭の密輸によって、3000 万ドル以上も得ています。これらの資金源を絶つことは、テロ組織の生命を脅かすほどの暴力的な行為を弱めるために不可欠なのです。

次の政策は、公共サービス・施設を見返りに行う武器回収です。これまでの銃回収は個人を対象に行われてきました。しかし、過去に首都モガディシヨで回収された銃はたったの 1 丁でした。高額な給料のためにテロ組織に入っていた若者たちは、一点目の政策によりもはや組織にいる理由がなくなり、自分が属していた氏族に帰ります。そこで、氏族の長老が銃を回収し、一定数以上の銃を集められた組織には、国連開発計画、UNDP が主体となって、彼らの学校といった施設インターネットといったサービスを提供します。武器回収の見返りとしての教育は、経済的な理由によって進学を断念しなくてはならなかった多くの若者にとって、またとないチャンスなのです。ソマリア北部のソマリランドでは、氏族の長老が、幾度もの長老会議を通して、根気よく武器の放棄の重要性を若者に説得しました。これに加え、UNDP が長老に銃回収のやり方を指示し、民間に出回っていた銃はほぼ回収されました。しかし、「銃を返した、無職になった」では、若者が再びお金のために武力行為に訴えてしまいます。彼らに暴力以外の方法で経済的に自立するための職を与えることが重要です。そこで三点目の政策として、元テロリストであった若者の職業復帰を行います。具体的には、年漁獲量 3 万トンというマグロの有数な漁場であるソマリア沖での漁業、農業が挙げられま

す。資金源を断ち切られたテロ組織は勢力を失います。そこでやっと外部が、ソマリア国内での援助を始められるのです。国内での援助は、壊されてしまった漁業基地の開発、干ばつの改善を中心に行います。漁業・農業の開発は UNDP が支援を行います。若者が経済的に自立できる道を与えることは、彼らが持続的に生活を営んでいくために不可欠なのです。

〈締め〉

たった 150 円のコーラを、大人が必死で奪い合う。

私たち日本人にとっては馬鹿げた状況に思えます。

しかし、私たちから見たら馬鹿げたそんな状況よりも、もっと深刻で重大な問題が現実で今、今まさに起こっているのです！

よく知らない。遠い国だから。他宗教には介入するな。

多くの人はそういいます。しかし、そこに生命を脅かされている人がいる以上、見逃している問題は一つとしてないのです！

今こそ、暴力、テロ、貧困、飢餓と向き合いましょう！

ソマリア問題解決はきっと、その一歩となるはずです。

ご清聴ありがとうございました。